

OUCH!

今月のトピック...

- ・教育 / コミュニケーション
- ・セキュリティテクノロジー
- ・手本となるように

子供をインターネット上で保護するために

はじめに

今や、子供がインターネットに接続して他人と交流を持つ機会はたくさんあります。新たなソーシャルメディア用のアプリやゲーム、学校から配布されるCHROMEBOOKなどがあり、子供の社会生活と未来は、いかにテクノロジーを駆使することができるかにかかっています。現代の親御さんは、これらの行為が安全に行われるようにしなければなりません。しかし、このようにテクノロジーが氾濫する環境で育っていない世代としては、これはとても大変なことです。そんな方たちのために、子供がテクノロジーを最大限に活かしつつ、安全に利用する方法をご紹介します。

ゲストエディタ

エイドリエン・デ・ボウブレ氏は、カナダのオタワ市で個人事業としてペネトレーションテストを行っており、SANS認定講師として活躍する傍ら、SANSのコース著者でもあります。技術的なことをしていない時は、家族と一緒に過ごしたり、道場にいたりします。ツイッター (@adriendb) で情報も発信しています。

教育 / コミュニケーション

まず一番にできることは、子供と双方向でコミュニケーションを取ることです。多くの場合、親はテクノロジーに注力し過ぎる傾向にあります。例えば、どのアプリが良い・悪いのか、子供向けのセキュリティ製品で一番良いものは、などと聞いてきます。結局のところ、これはテクノロジーの問題ではなく、振る舞いと価値観の問題なのです。親御さんとしては、子供に対して現実世界と同じようにインターネット上でも振る舞って欲しいと考えるでしょう。そのためにも、まずは子供に対してテクノロジーの利用に関するルールと期待する行動を伝えてください。その中で、考慮する事項として挙げられるのは以下のようなものがあります：

- ・ インターネットを利用して良い・良くない時間、そしてどのくらいの時間使って良いかの基準。
- ・ インターネット上で知り合った友人やフォロワーについて：知り合いになった経緯や、その人たちのことを実際に知っているかどうかも重要。
- ・ 訪問して良い・良くないウェブサイトや適切である・ないゲームについてそれぞれの理由。
- ・ 情報を誰となら共有してよいか：子供は、投降した情報が公開されることを意識していても、取り消すことができないことに気づいていません。また、一人
- ・ だけに秘密を明かしたつもりでも、簡単に世界中の誰とでも情報共有できてしまうことを知らないかもしれません。
- ・ インターネット上で気味の悪い、またはいじめ行為などの問題があった時の報告先。
- ・ インターネット上での他者に対するふるまい：自分が相手からされても許せるふるまいをすること。

子供をインターネット上で保護するために

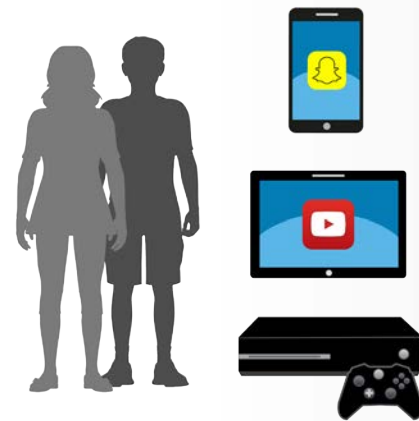
- インターネット上で匿名ということは絶対になりません：誰でも調べれば身元を明らかにすることができます。また、インターネット上での発言やふるまいが、その人の本当の姿とは限りません。

少し年齢が上の子供に対して、これらのルールを学校の成績、家の中でのお手伝いや他者に対する振る舞いと関連させても良いでしょう。現実世界での振る舞いが良ければその分インターネット上での行動範囲が広がります。これらのルールが決まった段階で、自宅の共有パソコンまたは子供の寝室のドア付近に貼り付けてください。さらに言えば、そのルールが記載されているドキュメントを子供にレビューしてもらい、家族全員が同意したことをサインなどで記録として残すようにしてください。子供と期待する行動について話しをする時期が早ければ早いほど良いでしょう。年齢が少し上の子供と話をするきっかけが見つからない場合は、どのようなアプリを利用して、どのような機能があるのか聞いてみてください。子供を先生に見たてて、インターネット上で何をしているのか見せてもらってください。

セキュリティテクノロジー

教育のだけでなく、子供を監視し保護するために利用できるテクノロジーもあります。このような方法は、それほど年齢がいっていない子供に対して有効だと思っています。特に誤って、不適切または悪意あるコンテンツにアクセスしてしまった場合に効力を発揮しますが、子供の年齢が上がれば上がるほど効果は薄れていきます。このような子供は、制限が少ない中でインターネット接続を必要とするだけでなく、管理下にない、または監視できない機器を利用することが増えてくるからです。例えば、学校から配布された機器、家庭用ゲーム機や親戚または友人宅のパソコンなどがあるでしょう。だからこそ、教育がとても大事になるのです。

さらにできる事としては、子供専用のパソコンを用意することが挙げられます。こうすることで、オンラインバンキングや納税処理などを行っている、機密な情報を保持している自分のパソコンが何かに感染することを防ぐことができます。また、子供専用のパソコンは、行動を監視するために家族の出入りが頻繁で、共有の場所に設置してください。子供が宿題をやっていると言っても、実際に宿題をやっているとは限りません。最後に、この子供用パソコンを常に安全な状態にしておいてください。定期的にバックアップを取ったり、子供に管理者権限を与えたりしないように気を付けてください。モバイル機器に関しては、家の中に共有の充電スペースを用意してください。子供が寝る前に、その充電スペースにモバイル機器を置くように徹底してください。こうすることで、本来寝ていなければならない時間にモバイル機器を利用したくなる衝動を減らせるでしょう。



インターネット上で子供を保護するために重要なのは、脅威などについて教育したり親から一方的に話すことだけではなく、子供の方からも話をしてもらうことです。

子供をインターネット上で保護するために

手本となるように

最後に忘れてならないのは、親として手本を示すことです。子供が話しかけてきた際には、モバイル機器を置き、目を見て話してください。食事中をしながらモバイル機器を利用したり、運転中しながら機器の操作は行わないでください。また、子供が過ちを犯してしまった場合には、それぞれを教育の場として扱うようにし、すぐに何かの処分を下さないようにしてください。毎回、「なぜ」ということを伝えた上で、見えない脅威から保護しようとしているということも念押ししてください。インターネット上で何か不快なことがあれば、いつでも相談しても良いということも一緒に伝えてください。その際には、スクリーンショットを取って見せるようにしてもらえると良いでしょう。大事なものは、何か過ちを犯してしまった場合には、いつでも相談できる雰囲気を作ることです。常にコミュニケーションを取れる状態にしておくことが、子供を現在のデジタルな世界での安全を保つ、最良の方法なのです。

詳しくは

毎月発行のセキュリティウェアネスニュースレター「OUCH!」をご活用ください。また、OUCH!のアーカイブで過去のトピックも参照できます。詳しくは、SANSセキュリティウェアネスソリューションのサイトをご覧ください。

securingthehuman.sans.org/ouch/archives

日本語版翻訳チーム

日本語版翻訳 - NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

NRIセキュアテクノロジーズは、国内でも有数の情報セキュリティ専門企業です。マネージドセキュリティサービス、コンサルティング、ソフトウェアソリューションなどの提供を通じて、情報セキュリティのあらゆる視点からお客をサポートします。<http://www.nri-secure.co.jp>

リソース

RSAC CyberSafety: Kids:	https://www.rsaconference.com/safety
NCSA:	https://staysafeonline.org/stay-safe-online/for-parents
FOSI:	https://www.fosi.org/good-digital-parenting
UK's National Crime Agency:	https://www.thinkuknow.co.uk

OUCH!はSANS Securing The Human プログラムによって発行され、[Creative Commons BY-NC-ND 4.0 license](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/)に従って配布されます。このニュースレターを再配布し、もしくは啓発資料としてご利用いただけますが、コンテンツの改変は認められません。翻訳その他に関しては、ouch@securingthehuman.org までお問合せください

Editorial Board: Bill Wyman, Walt Scrivens, Phil Hoffman, Cathy Click, Cheryl Conley

Translated By: 内山 貴之, 時田 剛



securingthehuman.sans.org/blog



[/securethehuman](https://www.facebook.com/securethehuman)



[@securethehuman](https://twitter.com/securethehuman)



[securingthehuman.sans.org/gplus](https://plus.google.com/securethehuman.sans.org)